

# 第3回病院事業経営評価委員会を開催！

（平成22年度収支決算見込みで、実質一億二千九百万円の黒字）

地方公営企業法の全部適用に移行後、初の決算を迎える市立中央病院。平成22年度の単年度収支の黒字化を必達目標として、経営改革に取り組んできました。

委員らは黒字を達成した病院経営を高く評価していましたが、さらなる経営分析が必要であるとの認識を示すとともに、上十三地域全体の医療計画の必要性についても言及しました。

7月26日、中央病院で開催された

第3回十和田市病院事業経営評価委員会では、▼平成22年度病院事業決算見込み▼延べ患者数及び医業収益の推移▼実入院患者数、外来新患者数、平均在院日数、手術件数及び検査件数▼後発薬品の全体に占める割合など13項目について説明が行われ、各委員と蘆野病院事業管理者など経営陣の間で質疑応答がなされました。

平成22年度病院事業の決算見込み（3月末現在）

単位：千円

区分	平成21年度	平成22年度
事業収益…①	6,595,946	7,654,998
事業費用…②	8,114,110	8,777,883
減価償却費など…③ ※現金の支出を伴わない経費	1,186,734	1,721,298

## 【現金ベースでの収支】

収益的収支…A ①－(②－③)	▲331,430	598,413
資本的収支…B	▲484,409	1,094,833
単年度資金収支…A+B	▲815,839	1,693,246

※単年度資金収支は黒字となりました。ただし、不良債務解消に係る市からの繰入金約15億4,700万円を含みます。

## 【資金不足額】

資金不足額	1,547,247	▲139,868
-------	-----------	----------

※資金不足額も▲（マイナス）となり、資金不足が発生していません。

### ■入院収益は前年度比で大幅な増加

大幅な増加

▼委員 入院収益は前年度から何%増えたのか、その理由は。

▼病院 前年度比13・7%増となっている。診療加算の対応などがうまくいったと考えており、小さな診療報酬をとるための小さな努力が大きな結果になったと考える。

### ■経営分析が必要ではないか

▼委員 患者の増加、診療報酬の増加などについて経営分析が必要ではないか。

▼病院 経営分析をすることができない。分析の体制づくりを進め、来年までには分析ができるようにしたい。そのために分析ができる人をアドバイザーとしてお願いする予定もある。

### ■全適移行後の効果、課題は

▼委員 地方公営企業法の全部適用に移行してから一年になるが、効果や課題は。

▼病院 一番の課題は給与・人員の問題、目標を見据えて動くことができれば、全適のメリットが出てくるかと考えている。

### ■手術件数が微妙に減少

▼委員 検査件数は増えているが、手術件数や新患者数が微妙に減少している。継続性を考えると少し気になる。どのように考えているか。

▼病院 整形外科の医師が3人から2人になったこと、麻酔科の常勤医がいけないことが影響していると考えられるが、今年、がんの拠点病院になったことや人間ドックで内視鏡を始めたことが手術件数の増加のきっかけになると考えている。

### ■経営健全化計画は

大胆な見直しが必要

▼委員 経営健全化計画の収支見通しは今後難しくなってくる部分があると思うが、どのように考えているか。

▼病院 将来どういった病院にするかという具体的なプランを入れて大きくつくり直す必要がある。今後は薬剤師やリハビリも重要になると考えられる。今年中に見直しをかけた。

### ■上十三の医療圏内で中央病院の位置づけが必要

▼委員 数年前につくった上十三圏域の医療計画から状況が変わってきている。市として圏域内で中央病院をどのように位置づけるのかビジョンをつくる必要があるか。

▼病院 市では、病院を支える医療行政という立場から地域医療推進協議会のスキームをつくったが、これは中央病院を核として、市における地域医療の推進を図るためのもので、今年中に動き出す予定である。

問総務課行政文書係 ☎6701



委員からの質疑に答える  
あしのりつこ  
蘆野吉和事業管理者